

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来 米国要人その他

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43339

ジョンソン大便誘沖

(42
3
2
4
)

北米局長
参事官
北米課長

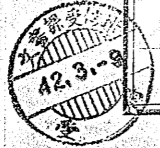
事務連絡第57号
昭和42年3月6日

右山
94
の
こ
こ
情
報
を
送
る

外務省北米局長 殿
那覇日本政府南方連絡事務長
ジョンソン大使の来島に関する件

(夫人同伴)
ジョンソン駐日米大使はバギオで行なわれるアジア太平洋地域米公館長会議出席の途次、アンガ高等弁務官の招待により駐日大使としてはじめて沖縄を訪問、当地に2泊(約30時間)滞在し、当地の米琉指導者と会談、米国民政府、琉球政府、琉球高工会議所及び在沖米人商議所共催の午さん会に出席、更にその直後内外記者会見を行なった。
以下、午さん会における演説と記者会見(内容は後信第52号にて送付済み)に対する当地の反響についてご参考までに報告する。
大使の演説及び記者会見の内容について

局長	河内
課長	吉田
副課長	元田
主任	川崎
係長	中田
係長	橋本
係長	黒須



総 理 府

716

2

は、すでに新聞等でご承知のとおり沖縄及び本土より派遣された報道関係者に不評であった。
理由としては、本土復帰、自治権の拡大、主席公選等彼等の最大の関心事についてたとえ私見でもよいかと言及してもらいたいという沖縄人の切なる要望を満足しなかつたことである。即ち大使は極東の安全保障における沖縄の地位乃至意義について従来からの米政府の公式見解を繰り返すのみであつて、ワシントンで行なう演説としてはよいかも知れないが、現地で行なうには内容も表現も官僚的で血がこぼれていないといふことで不評をかったものと思われる。
大使の見るところでは、沖縄の人は米日要人が来島する際に沖縄人に何か甘いことを言ってもらいたい、何か前向きの見通しを言ってもらいたいという素朴な気持ちで接しようとしており、沖縄をめぐる東アジアの環境から説き起し、彼等をしてCold factに直面せしめる内容のものを好まない傾向がある。米国留学をした

総 理 府

ことのある沖縄の新聞記者でさえ、ジョンソン大使が今回言った内容はもう耳にたこが出来るほど聞かされており、自分は米国の言分はよくわかるが又かという気持ちで聴くのはかわわない、何か別のことは言えないだろうかと言ったところ、傍にいたマーチン政治顧問は米国の沖縄政策はぶつと同一であるから外にどんな言い方があろうかと同記者に反問していた。

記者会見の席上、本土記者が沖縄問題は日米間の重大問題 (Major problem) ではないと言った同大使の東京着任後最初の記者会見中の発言について質問したのに対し、同大使は着任後の事例より見てもそのとおりであると答えたのには本使としても必ずしも納得がいかず、現地の人には甚だ冷淡に響いたことと思われる。

同大使は本土復帰、分離返還等の政治問題が今まで日米間の外交交渉上の問題になったことはなく、沖縄問題で日米間が交渉した船舶旗、戦政援助さらには旅券、移住等行政的問題は両国の話し合いにおいて円滑に解決されて

きていることを極めて役人的な見方で言ったのではないかと本使は考へる。同記者にもそのように述べたところ、日本の外務省の人にはジョンソン大使の言ったことはよく分るだろう、あなた達もよくあんな言い方をしませうと笑っていた。

公 信 写

米北至急情報 (No. 202) 至急情報受 3.16 配布 3.18

事務連絡第 57 号 昭和 42 年 3 月 6 日付 (3.9) 受

外務省米北局長 在 南 運 事 務 所 長

ジョンソン大使の来島に関する件

ジョンソン駐日米大使(夫人同伴)はバギオで行なわれるアジア太平洋地域米公館長会議出席の途次、アンガー高等弁務官の招待により駐日大使としてはじめて沖縄を訪問、当地に 2 泊(約 30 時間)滞在し、当地の米・琉指導者と会談、米国民政府、琉球政府、琉球商工会議所及び在沖縄米人商議所共催の午餐会に出席、更にその直後内外記者会見を行なった。

以下、午餐会における演説と記者会見(別添 1)に対する当地の反響についてご参考までに報告する。

42 年 3 月 4 日 沖 繩 夕 日 報 (朝 刊) 1 面

那 覇 に お け る ジ ョ ン ソ ン 米 大 使 記 者 会 見

【本報那覇 4 日電】駐日米大使ジョンソン氏(夫人同伴)は、この日午後 4 時、那覇米領事館に到着し、午後 6 時、在沖米人商議所共催の午餐会に出席し、演説を行った。午後 7 時、内外記者会見を行った。

ジョンソン大使は、演説で「私は、この訪問を通じて、沖縄の人々と親交を結ぶことを目的としている。沖縄は、米国の重要な防衛地帯であり、その平和と安定は、米国の利益に直結している。私は、沖縄の発展と繁栄を願っており、米国民政府と琉球政府との協力関係を強化することを希望している。」と述べた。

記者会見では、記者から「沖縄の防衛地帯としての役割について」と質問された。ジョンソン大使は、「沖縄は、米国の防衛地帯であり、その役割は非常に重要である。私は、沖縄の防衛を強化し、その安全と安定を確保することを希望している。」と答えた。

また、「琉球の発展と繁栄について」と質問された。ジョンソン大使は、「琉球の発展と繁栄は、米国の利益に直結している。私は、琉球の発展と繁栄を支援し、その経済成長を促進することを希望している。」と述べた。

ジョンソン大使の来島は、当地で大きな反響を呼んでいる。琉球商工会議所は、「ジョンソン大使の来島は、琉球の発展と繁栄に大きな貢献をしてくれると期待している」と歓迎している。

また、琉球政府は、「ジョンソン大使の来島は、琉球の国際的地位を向上させるに貢献するものと期待している」と歓迎している。

一方、米国民政府は、「ジョンソン大使の来島は、琉球の防衛と安定に貢献するものと期待している」と歓迎している。

大使の演説及び記者会見の内容については、すでに新聞等でご承知のとおり沖縄及び本土より派遣された報道関係者に不評であつた。

理由としては、本土復帰、自治権の拡大、主席公選等彼等の最大の関心事についてたとえ私見でもよいから言及してもらいたいという沖縄人の切なる要望を満足しなかつたことである。即ち、大使は極東の安全保障上における沖縄の地位ないし意義について従来からの米政府の公式見解を繰り返すのみであつて、ワシントンで行なり演説としてはよいかも知れないが、現地で行なりには内容も表現も官僚的で血がかよっていないということで不評をかつたものと思われる。

本使の見るところでは、沖縄の人は米、日要人が来島する際に沖縄人に何か甘いことを言ってもらいたい、何か前向きの見通しを言ってもらいたいという素朴な気持ちで接しようとしており、沖縄をめぐる東アジアの環境から説き起こし彼等をしてcold factに直面せしめるごとき内容のものを好まない傾向がある。米国留学をしたことのある沖縄の一新聞記者でさえ、ジョンソン大使が今回言つた内容はもう耳にたこが出来るほど聞かされており、自分は米国の言分はよくわかるが、またかという気持ちで聴くのはかなわない、何か別のことは言えないだろうかと言つたところ、傍にいたマーチン政治顧問は米国の沖縄政策はずつと同一であるから外にどんな言い方があるだろうかと同記者に反問していた。

記者会見の席上、本土記者が沖縄問題は日米間の重大問題 Major Problem でないと言つた同大使の東京着任最初の記者会見中の発言について質問したのに対し、同大使は着任後の事例

秘

公 信 号

4

より見てもそのとおりであると答えたのには本
便としても必ずしも納得がいかず、現地の人には
甚だ冷淡に響いたことと思われる。

同大使は本土復帰、分離返還等の政治問題が
今まで日米間の外交交渉上の問題になつたこと
はなく、沖縄問題で日米間が交渉した船舶旗、
財政援助さらには旅券、移住等行政的問題は兩
国の話し合いにおいて円滑に解決されてきている
ことを極めて役人的な見方で言つたのではない
かと本使は考える。同記者にもそのように述べ
たところ、日本の外務省の人にはジョンソン大
使の言つたことはよく分るだろう、あなた達も
よくあんな言い方をしますからねと笑つていた。

配布先 大臣、政務次官、事務次官、外務審議官、官房
長、官総、人、歳、会、文、世DP、質長、参、
調、質、並長、参、総、中、東、米長、参、北、
保、欧長、西、経長、米カ、並、経協長、賠番、
参、政、国、國長、政、軍、条長、参、条、
規、中移長、参、総、移、旅、情長、参、道、
内、外、研、大阪連絡事務所、南連事務所、文長
米

外 務 省



U.S. INFORMATION SERVICE
PRESS BRANCH

(注) 3月3日 那覇の和竹
ステ. 外. 別送
米州守官等に
ア. 外. 社.

PRESS RELEASE

速報 ニュース

FOR IMMEDIATE RELEASE:

AMBASSADOR U. ALEXIS JOHNSON TO VISIT OKINAWA

Tokyo, February 16 -- The U.S. Ambassador to Japan, U. Alexis
Johnson, will visit Okinawa March 2-4. The Ambassador will be accompanied
by Mrs. Johnson.

The visit is being made at the invitation of Lt. Gen. F. T. Unger, High
Commissioner of the Ryukyu Islands, for purposes of general familiarization
with the situation in Okinawa, consultation with the High Commissioner and
other U.S. officials and to meet with Ryukyuan leaders.

While in Okinawa, Ambassador Johnson will address a luncheon hosted
jointly by the U.S. Civil Administration of the Ryukyu Islands, the Government
of the Ryukyu Islands, the Ryukyu Chamber of Commerce and Industry and the
United States Chamber of Commerce on Okinawa.

The Ambassador will depart Okinawa on March 4 to attend the March 4-8
Far East Chiefs of Mission Conference in the Philippines.

67-20R

在日米国大使館文化交換局

AMERICAN EMBASSY - TOKYO



文化交換局・報道部

〇〇 PRESS RELEASE

ニュース速報

一九六七年二月十六日

ジョンソン駐日米大使、沖縄訪問

(東京二月十六日発) U・アレクシス・ジョンソン駐日米大使は、夫人とともに三月二―四日沖縄を訪問する。

この訪問は琉球高等弁務官P・T・アンガー中将の招きによるもので、沖縄事情の視察、高等弁務官その他米当局者との協議、琉球指導者との会談が目的である。

沖縄滞在中、ジョンソン大使は米・琉球民政府、琉球政府、琉球商工会議所および在沖縄アメリカ商業会議所共同主催の昼食会で演説する。三月三日には公開記者会見を行なう。

大使は同四日沖縄を出発、極東公館長会議(三月四―八日)に出席のためフィリピンに向かう。

67-20R